

授業概要

保育実践において実際の子どもの即して関わることは子どもの一人一人の心身の発達や学びを最適に進めるために重要である。そのために子どもの実態に即した発達や遊びの過程の中で子ども理解する上での基本的な考え方、子どもを理解する視点を学ぶ。合わせて、子どもを理解するための具体的方法、そして子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について学ぶ。

授業計画

第 1 回	1.子どもの実態に応じた発達や学びの必要性について
第 2 回	① 保育における子どもの理解と意義
第 3 回	② 子どもの理解に基づく養護及び教育の展開について
第 4 回	③ 子どもについての共感的理解と子どもとの関わりのあり方
第 5 回	2.子どもを理解する視点のあり方について学ぶ
第 6 回	① 子どもの生活と遊び(遊びの持つ意味)
第 7 回	② 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達
第 8 回	③ 子ども相互の関わりと関係づくり(子どもの発達と友達関係の変化)
第 9 回	④ 集団での経験と子どもの成長(いざこざ、ケンカと子どもの成長)
第 10 回	⑤ 葛藤やつまずきと子どもの成長(競争、達成感と子どもの成長)
第 11 回	⑥ 保育の環境の理解と構成
第 12 回	⑦ 保護者の心情と基礎的な対応の仕方について
第 13 回	3.子どもを理解する方法について学ぶ
第 14 回	① 観察法の内容と特徴 ②面接のあり方 ③心理検査
第 15 回	④ 記録のとり方とその意義
第 16 回	定期試験

到達目標

1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。
2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。
3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。
4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

履修上の注意

- ① 毎回出席を取るので休まないこと。
- ② 私語・携帯は慎むこと。
- ③ 授業には積極的に参加すること。授業中は質問していくので積極的に発言するように心掛けること。
- ④ 内容に応じて、小テストを実施することがある。

予習・復習

各回の授業については事前に目を通し調べておくこと。授業の内容によっては、予習・復習を兼ねてレポートを課すことがある。

評価方法

レポート提出(30%)、平常点(授業の中で行う小テスト)(30%)、筆記試験(40%)により合わせて総合的に評価する。

テキスト

テキストは特に指定しないが、適宜必要に応じて参考書などを紹介する。